



風かおる
人が輝き
躍動するまち

とままえ

6

No. 610



まちひと百景

泥だらけも田植えに夢中!

学社融合事業で行われた田植えの様子。

最初は泥の感触や水の冷たさに抵抗があったようだが、慣れてくるに従って楽しんでいるように見えた。

最近では泥だらけになって遊ぶことが無くなっただけに、泥に触れるという非日常体験の機会が新鮮に感じたのかもしれない。

児童たちは衣服に泥がついているのも気にせず、秋の実りを願って1本1本の苗を田に植えているように見えた。

- ご当地料理研究会より商品化ほか… 2
- 町内小中学校配置計画住民説明会ほか… 3
- 住民公開講座「慢性腎臓病」ほか… 4
- ファイヤー通信ほか… 5
- 健康ばんざい… 6
- 学びの広場… 7
- 介護保険ガイド… 8
- 国民年金… 9
- 住まいる情報… 10～11
- ちびっこギャラリー… 12

まちの人口

人口/3,538人 (男/1,678人:女/1,860人)
世帯数/1,636世帯 (5月31日現在)

URL:<http://www.town.tomamae.lg.jp>

ご当地料理研究会より商品化、販売も好評！

～とままえ温泉ふわっとでエビバーガー発売！～



水産物ブランド化プロジェクトの一環で水揚げされる水産物からおもてなし料理を創作・研究するご当地料理研究会が試作を繰り返していった商品が正式に販売されることとなり、4月26日(木)とままえ温泉ふわっとレストランで披露された。甘エビに衣をつけて揚げたものに、レタスとキャベツの千切りにタルタルソースをのせ、バンズで挟んだ「エビバーガー」で、単品では290円、ドリンクとセットで400円にて土日限定で販売された。注文を受けてから作ることもあり、ゴールデンウィークには次々と売れ、うれしい悲鳴だったようだ。

同レストラン料理長の西岡達之さんも「手軽に食べることができ商品が完成したので、子どもたちなど多くの人に食べてほしい」と述べた。

ルールを守って安全に ～町内保育園・小学校で交通安全教室～

雪解けが終わり、子どもたちが自転車の利用などで行動範囲が広がるため、改めて交通安全ルールの確認などを行う青空交通安全教室が各保育園(所)や小学校で開催された。

苫前保育園では5月14日(月)、古丹別保育所では5月18日(金)に同教室が実施され、紙芝居風による交通ルールの説明の後、信号機がある交差点での横断歩道の渡り方を体験した。信号機が青になり、きちんと左右を確認してから、手を挙げて横断歩道を渡る園児もいたが、中にはナナメに横断してしまう園児もいて、笑いの中でもしっかりと交通安全ルールの確認をしていた。



高齢者事業団創立20周年記念式典



4月28日(土)にとままえ温泉ふわっとで町高齢者事業団(鎌田信夫会長)の創立20周年記念式典が挙行された。

平成4年4月に高齢者の就労の場を作ることを目的として創立された事業団も現在では約90名の会員で活動、作業も町内施設の管理から農作業など多岐に及んでいる。

当事業団の金田武副会長が式辞で「20年の節目に、仲間とともに生きがいの充実と健康づくりを増進し、地域活性化と信頼される事業団としての発展を続けていきたい」と述べ、森町長は「更に飛躍して高齢者の拠点として本町の重要な一翼となるよう期待している」と祝辞を述べた。

20周年記念事業として約15年間、施設管理などで回収した空き缶類を売却した収益金を福祉用具整備のためと町社会福祉協議会の笹原進会長へ贈呈した。

まちづくり基本条例への提言書を町長へ提出

まちづくり基本条例検討委員会(渡部一男委員長)が平成23年10月11日からまちづくり基本条例の見直し規定に基づいて検討・協議を行い、取りまとめた提言書を5月7日(月)に森町長へ提出した。

これは現行の基本条例が本町にふさわしいものかを4年を超えない期間ごとに行うこととなっており、ため、見直しが適当と判断したときは必要な取り組みを行うものとしている。

各団体から推薦された17名の委員で5回の会議を開催、住民の意見募集などを行い、提言書が取りまとめられた。

渡部委員長は「基本条例への住民理解度の醸成の高まりを期待し、所要の改善をお願いしたい」と提言書を森町長へ手渡した。



進学にはどのくらいお金がかかるかを確認 ～苫前商業高等学校で職業を知るガイダンス等開催～



5月7日(月)に苫前商業高等学校(小笠原茂美校長)で「進学費用と資金繰り」が開催され、全校生徒73名が将来に向けての確認を行った。

ライセンズアカデミー札幌支社リーダーの阿部陽介さんより進学費用はどのくらい必要かの説明があり「卒業までに専門学校・短大では約200万円、国立大学では約250万円、私立大学では約400～500万円かかる。そして、1年目には入学金・授業料を含む初年度納入金を入学前に支払わなければならない、入学前に資金調達が必要」と述べた。

その後、専門的な職業にはどのような資質や能力が必要かを、札幌市内9校の専門学校の講師より説明があり、生徒は自分の興味のある職業について知るため、真剣にメモをとりながら耳を傾けていた。

「町内小中学校配置計画（素案）」に伴う住民説明会を開催



5月10日（木）に福祉センターで町内小中学校配置計画（素案）の住民説明会が地域住民など約30名の参加で開催された。

町立学校建設検討委員会（尾泉義博委員長）では子どもたちのよりよい教育を一番に重視して、約3ヶ月の期間で検討委員会や小委員会を開催、協議を重ねた結果、素案を住民に示し、それに対する意見を聴取した。意見では「複式学級の想定について」「多目的とはどのようなものを想定しているか」など多くの意見が出された。

今後、住民説明会で行った意見等を踏まえて計画案を策定し、パブリックコメントで広く住民の意見をとりまとめた後、再度検討委員会を開催、方向性を決めた上で、6月中に町長へ提言される予定としている。

現在、意見募集を行っている計画（案）の概要については下のとおり（ホームページ掲載や役場・公民館に設置しています）

●町内小中学校配置のあり方

小学校は、将来複式学級になることが予想されるが、苫前・古丹別の両地区にそれぞれ小学校を配置することが望ましい。

中学校は、学年単独による授業が望ましいため、複式学級編成基準該当前の時機に、中学校統合についてのあり方を検討することが望ましい。

小学校は、安全性、規模のコンパクト化、事業費の縮減、地域コミュニティと融合した多目的・複合的な機能を配慮した計画設計が望ましい。

●苫前小学校のあり方

苫前中学校敷地内での併設も可能だが、現校舎が好立地場所であることを勘案して、同敷地内での単独改築が望ましい。

●古丹別小学校のあり方

古丹別中学校敷地内での併設（グラウンドや体育館を共有）が可能だが、教育条件と市街地内に建設可能な造成地がないことを考慮して、現校舎敷地内での単独改築が望ましい。

雪解け後のマチをきれいに！

～子ども会育成連絡協議会クリーン作戦～

町子ども会育成連絡協議会（早川日出利会長）主催のクリーン作戦が5月12日（土）に開催、町内一円でゴミ拾い活動が実施された。雪解けの後に町内に残った多くのゴミを拾って、まちをきれいにする目的で毎年開催されているもので、今年も16の子ども会の育成者と子ども会会員など約300名が参加した。

開会式で挨拶や注意事項などを確認した後、それぞれの子ども会の区域を子ども会会員と育成会員のほか、老人クラブ、婦人会の協力で多くのゴミが回収された。

クリーン作戦終了後には子ども会会員にジュースが配布され、作業の後の喉を潤していた。

町子ども会育成連絡協議会（早川日出利会長）主催のクリーン作戦が5月12日（土）に開催、町内一円でゴミ拾い活動が実施された。雪解けの後に町内に残った多くのゴミを拾って、まちをきれいにする目的で毎年開催されているもので、今年も16の子ども会の育成者と子ども会会員など約300名が参加した。

開会式で挨拶や注意事項などを確認した後、それぞれの子ども会の区域を子ども会会員と育成会員のほか、老人クラブ、婦人会の協力で多くのゴミが回収された。



桜もなんとか残った！

～第41回古丹別緑ヶ丘公園さくらまつり～



5月13日（日）に第41回目となる古丹別緑ヶ丘公園さくらまつりが同公園内で開催され、町内町外など併せて約1千人が桜の下での焼き肉やステージショーを楽しんだ。

5月に入り、気温が急上昇したため、緑ヶ丘公園内の桜が散ってしまうのではという懸念があったが、まつり当日は予想以上の桜が残っていたため、関係者もひと安心だったようだ。

さくらまつり実行委員会の大矢根正春実行委員長と森町長の挨拶の後、苫前鱗萃会のよさこいでスタート。「風の旅人」や「よっちゃれ」などの踊りを披露。6月6日（水）から開催される第21回YOSAKOIソーランまつりへの出場を発表し、応援をお願いした。

続いて山本裕美子さんの歌謡ショーでは、オリジナル曲や民謡など様々なジャンルを披露し、その歌唱力に大きな拍手がおこった。

カラオケ大会では、地元参加者はもちろん、留萌や札幌から参加した方も加わり、拍手とともにおひねりが届く参加者もいて大いに盛り上がった。

また、会場の後では各団体や商店が出店し、そばやたこ焼き、陶芸作品、手芸品などを販売、お昼時には列を作っていた。

桜の下でジンギスカンを楽しめる時期が少ないため、来場した方々は、心地よい時間を満喫していたようだ。



第2の国民病と呼ばれる慢性腎臓病に注意を ～住民公開講座～



5月15日(火)に公民館でJ A北海道厚生連苫前クリニックの住民公開講座が開催され、地域住民等約20名が参加した。

「慢性腎臓病ってなあに」をテーマにJ A苫前厚生クリニックの福井実院長が講師として説明を行った。

慢性腎臓病は腎臓機能の低下が続く。進行しないと自覚症状が表れず放っておくと慢性腎不全になる恐ろしい病気です。日本に推定1千3百万人の患者がいると言われ、新しい国民病とされている。

福井院長は「慢性腎臓病は完治できず、病状をその位置に留めておくしかできない。そのためには早期発見が必要であり、心配であれば検診を受けてほしい」と呼びかけた。

第52回苫前町商工会通常総会を開催



5月16日(水)にとままえ温泉ふわつとで森町長ほか来賓等あわせて約50名の参加で開催された。

菊地暢会長は「過疎化や公共事業の減少など課題が山積しているが、新しい発想の経営革新や地域資源の活用による新産業創出など新分野への積極的な参加が重要になるため、会員企業への経営支援や地域商工業の活性化を推進していきたい」と挨拶した。

この後、平成24年度事業で前年に引き続きプレミアム地域振興券の販売を行うなどを含めた議案6件すべてが可決承認された。

また、役員改選も行われ、新しい役員は次のとおり。

(会長・副会長のみ掲載)

会長 菊地 暢(留)

副会長 前田 久義(新)

副会長 渡部 和人(新)

携帯電話・インターネットを使う際には注意を ～苫前中学校でケータイ安全教室～



5月23日(水)に苫前中学校(外山一正校長)でケータイ安全教室がN T Tドコモあんしんインストラクターの道下里美さんを講師に全校生徒43名を対象に開催された。

携帯電話やインターネットによる被害は、中学生に多く発生しているため、ルールとマナーを学ぶことを目的に行われた。

講話では迷惑メールやコミュニケーションサイトなど中高生が多く利用するようになって話され、自分の身は自分で守ること、人の悪口や個人情報を書き込まないこと、困ったときは両親や先生などに相談すること。そして、携帯電話をもつことは責任をもつことを忘れないうでほしいと述べた。

最後に檜谷祥貴くんより「携帯について教えていただきありがとうございます。携帯を使うときは気をつけたい」とお礼の言葉が述べられた。

有事に備え、本番さながらに訓練 ～苫前町消防団総合演習～



5月27日(日)に公民館駐車場で苫前町消防団(瀬川信昭団長)の総合演習が本番さながらで実施された。

人員報告や服装点検の後、苫前分団の訓練礼式、古丹別分団のポンプ操作が行われ、きびきびとした動きを披露、模擬火災訓練は古丹別保育所調理室から出火を想定し、南側より集中放水を行った。

森町長は「家業の傍ら、消防業務に協力いただき経緯と感謝を申し上げます。本町の無火災が684日続いているのは皆さんの日頃の予防のおかげであり、これからも一層の協力をお願いしたい」と挨拶を述べた。

北留消防組合の高橋総務課長も「日頃の訓練の成果が表れ良好で、模擬火災訓練も各部署が連携し行われていた」と評価していた。

昔ながらの田植えに大はしゃぎ ～岩見の花井さん宅で学社融合事業「田植え」～



5月28日(月)に岩見の花井秀昭宅圃場で学社融合事業「田植え」が開催され、町内の小学校5年生28名が昔ながらの田植えを体験した。

4月に苫前・古丹別小学校それぞれで初まきを行った苗が約15センチほどに成長し、この田植えを迎えた。

児童は成長した苗をフネに移し替え、作業を実施。最初水の冷たさや泥の感触に歓声を上げるなど気になっていたが、慣れていくうちに手際よく稲を植えていく様子が印象的だった。

植えた苗は、花井さんが成育を見守るが、7月には稲の生育状況や穂の中がどのようになっているかを学習する成育調査を実施、9月下旬頃には鎌を使った稲刈りが実施される。